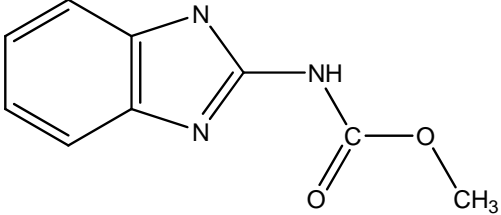


4	CAS 番号：10605-21-7	物質名：メチル=ベンゾイミダゾール-2-イルカルバマート
化審法官報公示整理番号：5-465 化管法政令番号：2-95 分子式：C <sub>9</sub> H <sub>9</sub> N <sub>3</sub> O <sub>2</sub> 分子量：191.19		
構造式：		

### 1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 5.8 mg/L (20 )で、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 1.52、蒸気圧は  $4.88 \times 10^{-10}$  mmHg (=  $6.51 \times 10^{-8}$  Pa) (20 )である。生物分解性 (好氣的分解) は BOD 分解率で 0% であり、濃縮性がない又は低いと判断される物質である。また加水分解性による半減期は、35 日超 (22 、pH 5-7) 65 日 (水温：25 ± 1 、pH：9、試験期間：24 日) 124 日 (22 、pH 9) であり、加水分解しない (水温：25 ± 1 、pH：5 及び 7、試験期間：24 日) との情報もある。

本物質は化学物質排出把握管理促進法第二種指定化学物質に指定されている。主な用途は、一液性ポリウレタンシーラント、紙、塗料、木材などの防カビ剤とされている。本物質の平成 24 年度における製造・輸入数量は 1,000t 未満、化管法における製造・輸入量区分は 1t 以上 100t 未満である。

### 2. 曝露評価

化管法第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Model により媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壤に等量排出された場合、土壤に分配される割合が多い。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度 (PEC) は、公共用水域の淡水域では 0.12 µg/L 程度、海水域では 0.015 µg/L 程度となった。限られた地域を対象とした環境調査において、公共用水域・淡水で最大 5.6 µg/L の報告があった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 2,700 µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 160 µg/L、魚類ではアメリカナマズ *Ictalurus punctatus* の 96 時間 LC<sub>50</sub> 10 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) 0.1 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 1,000 µg/L が信頼できる知見として得られたため、アセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 10 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、魚類の急性毒性値から得られた 0.1 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は、淡水域で 1.2、海水域では 0.15 となるため、詳細な評価を行う候補であると考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	PEC/PNEC 比による判定	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)			
魚類 アメリカナマズ	急性	LC <sub>50</sub> 死亡	100	0.1	淡水	0.12	1.2		
					海水	0.015	0.15		

-----  
4. 結論

	結論	判定
生態リスク	詳細な評価を行う候補であると考えられる。	

[リスクの判定]    : 現時点では作業は必要ない、    : 情報収集に努める必要がある、    : 詳細な評価を行う候補、 × : 現時点ではリスクの判定はできない  
    (    ): 情報収集等を行う必要性は低いと考えられる、(    ): 情報収集等の必要があると考えられる、( - ): 評価の対象外、あるいは評価を実施しなかった場合を示す